

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

藤 本 秀 樹

○富山県富山市

小中一貫的連携教育について

【所 見】

芝園小学校、中学校においての小中一貫的連携教育は、一般的な小中一貫教育とは異なり、教育課程を9年間で一貫したものとしているわけではなく、校長先生もそれぞれにおり、教育課程も別々にある。小中一貫的連携教育の柱は小学校と中学校が一体型校舎であり、この一体型校舎で学ぶことが自然な形で小・中学生が触れ合う機会があるという環境づくり、9年間ともに学び成長する拠点として理想的な空間となり得ている最も重要な特徴であると感じた。

一体型校舎で学ぶ本質の一つとして、個人のイメージとしては、学生寮での集団生活により社会性を学ぶような、二世帯住宅で世代の違う生活スタイルを尊重しつつ補う場面もあるなど、同じ空間で生活しながら自然と学ぶことが多い状況ができていないのではないかと考える。小・中学校の児童生徒が生活空間を共有し、合同で活動に取り組んだりすることで、児童生徒はもとより教員と児童生徒の間にも自然な交流が生まれ、小学校から中学校への滑らかな接続につながっているようだ。

小・中連携の取組としては、避難訓練を合同で行ったり、中学校の合唱コンクールの練習の様子を小学生が見学したり、図書館まつりの一環として中学生が小学校に出向いて絵本の読み聞かせをするなどの交流を行っている。校舎がつながっているため頻繁に触れ合う機会があるとのことである。

小中学校の校舎間をつなぐ共用棟には、図書室やステージ、ランチルーム、コンピュータ室や、学習コーナーなどの交流空間や共用空間が充実している。深さが変えられる室内プールや広い廊下、吹き抜けの空間に大階段、芝生の校庭など、圧倒的な施設の充実に、まだまだ新しい可能性を秘めた教育の仕組みを発信していくであろうと感じた。

○石川県金沢市

金沢市における美しい景観のまちづくりについて

【所 見】

金沢市においては、市固有の景観を守ろうとする意識が高く、国の方策を待た

ず、昭和43年、日本で初となる伝統的・歴史的な都市景観を守るため、金沢市伝統環境保存条例が制定されている。金沢市の景観が維持され、進化を続けるのは、早い時期より多くの条例による明確な制度の確立や、平成29年現在で90以上の対象事業に補助金交付・助成制度があることが要因のひとつと考える。景観に取り組む強い行動力と熱意を感じた。また、美しい景観のまちづくりに関し必要な事項について審議するため、知識や経験を有する方、市民及び関係団体を代表する方と行政機関の職員により構成される「金沢市景観審議会」は、優れた景観をつくる上で重要な役目を果たしていると感じる。委員数は平成30年で20人で、金沢市は大学が多いことから大学の教授が半分弱も参加している。専門的に秀でた人材が柱となり推進されていることも大きな成功の要因であると考え。景観や文化財等の保全とともに、利活用も観光も一体的に扱う組織の存在は非常に大きいと感じた。さらに市民ボランティアである景観サポーターが景観に関して取材・記録を行うほか、参画、景観誘致、点検などをテーマに、市民の意識啓発や市民目線の提案などを推進している。イメージされた景観をはめ込むだけでなく、生活の営みの中から景観が作り出されているため、訪れた方がほっとりと和まれるのではないかと感じた。金沢市民の皆様が一丸となって景観保全の取組を始めて50年、試行錯誤と努力の積み重ねで築かれた故郷を大切に思う姿勢がうらやましく感じる。

金沢らしい夜間景観整備計画の中で、夜間景観の在り方として、暖かみのあるあかり、まぶしくないあかりなどを推奨している。少し内容とは異なるが、ここでいう「らしさ」とは何かとの質問に「違和感がないことでは」との答えに共感した。課題の一つとして、周辺環境に調和した防犯灯の整備を挙げ、防犯灯を電球色のLEDに交換し、暖かみのあるあかりを推進している。また安全・安心のまちづくりを目指し、市内全域においてLED防災灯への一斉更新を行うESCO事業も取り入れられている。電球色に変えたことでの事件・事故等が増えたとの報告はないとのことである。これらの使用は、担当課の環境政策課と危機管理課、景観政策課が連携し、環境、防犯、景観のコンセプトの統一を図り、仕様書の段階から詳細を詰めた成果とのことである。本市でも織姫神社のライトアップや足利銘仙行灯等による「灯り物語」イベントなどスポット的に素晴らしい企画を発信している。日頃からの夜間景観も整えたいと感じる。

2020年は東京オリンピック開催の年であり、2022年にはいちご一会とちぎ国体も控えている。本市においても、様々な観光資源を成長させるために、この大きなチャンスも踏まえた上で、今回の視察を大いに参考にしたい。